

絵本がつなぐイメージのリレー

絵本『ミシュカ』*の一場面が、インスピレーションのみなもととなって、あらたなアート作品がうまれたことを、大変うれしく思います。

多くのひとに、外国の絵本をたのしんでもらえたらと、長年の友人である酒谷佳子さんが主宰するアトリエ・ウーフに、いつのころからか、仕事のために取りよせた洋書絵本のサンプルや、翻訳、編集をてがけた絵本を、折りにふれて届けてきました。『ミシュカ』もそんな1冊です。

フランスの絵本叢書(そうしょ)「ペール・カストール」シリーズの1冊として、1941年に刊行された『ミシュカ』は、フランスをはじめ各国で、ロングセラーとして読みつがれています。そんな古典的な絵本に想をえて、アーティストの久保直己さんがみずみずしく描いているのは、ぬいぐるみのミシュカが家出をして、つかのまの冒険をたのしむ森です。〈アール・クーヴォー〉の森で、ミシュカはどんな冒険に出会うのだろうと、ワクワクしています。



久保直己 「ミシュカ」2015年制作

みつじまちこ (翻訳家)

* マリー・コルモン／文 フォードル・ロジャンコフスキー／絵
みつじまちこ／訳 新教出版社 2012